

市川三郷町 市川大門 編

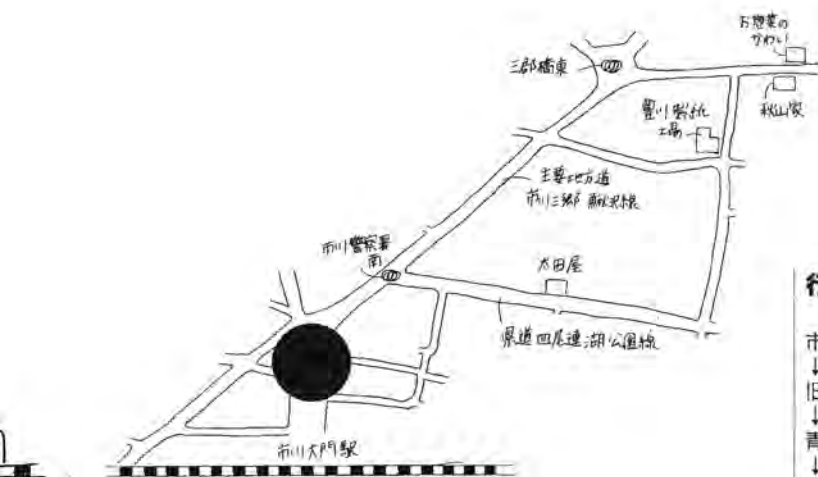
蔵のある古民家を訪ね、
天井川沿いの「ころがきの里」を歩き、
市川名産の和紙を漉く旅



わがまち
再発見
ガイドブック

ichikawa-misato

ぬりえにチャレンジ!



行程案

市川大門駅
 ↓
 旧高田小学校・中学校跡
 ↓
 青柳瑞穂宅跡・御旅所
 ↓
 イホ地藏
 ↓
 印石 (おしていし)
 ↓
 弓削神社 (ゆずりじんじや)
 ↓
 六地藏石造幢
 ↓
 青柳健太郎さん宅
 ↓
 印沢川
 ↓
 一之宮浅間神社
 ↓
 流通寺
 ↓
 古田農園
 ↓
 西光寺
 ↓
 中町の道祖神
 ↓
 愛宕社
 ↓
 三枚橋 (さんべい)
 ↓
 お惣菜 (そうざい) のかわい
 ↓
 秋山家
 ↓
 豊川製紙
 ↓
 太田屋

弓削神社

印

也蔵

村松錦鯉店
(六地藏)

市川三郷町 市川大門 編

蔵のある古民家を訪ね、
天井川沿いの「ころがきの里」を
歩き、市川名産の和紙を漉く旅

わがまち 再発見 ガイドブック

ichikawa-misato



市川大門駅は、町の公民館 でもある!?

中国風の建物の駅舎は、町内の「大門碑林公園」(だいまんひりんこうえん)の設置に合わせて、平成七(一九九五)年に完成しました。外観は駅舎ですが、駅舎内は市川大門下地区の公民館でもあります。地域の人々の交流の場として考え出されたという駅舎と公民館の合築は珍しく、山梨県内ではここだけです。駅は無人駅ですが、公民館には、調理実習室や風呂なども設けられています。なお、一般の旅客が利用できるのは、待合所のみとなっています。



01

高田小学校は、世界的名指揮者の父、小澤征爾の出身校である。

高田公民館の敷地には、高田小学校と高田中学校がありました。小学校は、明治六（一八七三）年に高田の長生寺で発足し、大正十一（一九二二）年に現在地に校舎が新築されました。この高田小は、指揮者の小澤征爾の父、開作の出身校でした。また、中学校は昭和二十二（一九四七）年に創立。木造二階建ての校舎には一時的に役場が併設されていたそうです。いずれも、市川小学校、中学校に統合されました。公民館の脇に立つ二宮尊徳像が、その昔、ここに学校があったことを物語っています。



【小澤開作】1898～1970年

旧・市川大門町出身。歯科医師。指揮者・小澤征爾の父。民主主義者。昭和3（1928）年、鴻州青年連盟を結成。昭和12（1937）年、中華民国新民会を結成。戦後は川崎市で開業。

ちよつと寄り道

詩人で仏文学者、

さらに古美術発掘家でもあつた

青柳瑞穂

(おおやきみずほ)

は、

高田地区の出身である。



地主で質屋も営んだ青柳家は、土蔵に多くの書画や骨董があつたといひます。青柳瑞穂は、甲府中学校を卒業後、上京、堀口大学に師事して詩作、翻訳に携わります。「阿佐ヶ谷文士の村」という文士たちの集いは、井伏鱒二、太宰治などと交流がありました。その傍ら、骨董収集に身を投じました。

現在、生家の跡には青柳家の門が残っています。ちなみに、青柳家の前には、石の祠の道祖神があります。ご神体は紛失してありませんが、浅間神社の祭りの際、神輿の休む御旅所になっています。



【青柳瑞穂】1899～1971年

山梨県高田村(旧市川大門町)出身。詩人、仏文学者、古美術発掘家。

慶應義塾大学フランス文学科卒、堀口大学に師事。詩集『睡眠』、評論『ささやかな日本発掘』、訳書、

ルソーの『孤独なる散歩者の夢想』など、著書多数。

古美術発掘家としては昭和12(1937)年に古物商で、尾形光琳唯一の真筆肖像画「中村内蔵介像」(重要文化財、大和文華館所蔵)を発見する。

【道祖神】

村里の入り口で悪霊の侵入を防ぐ神。旅行安全、縁結び、子授け、安産の神などとして、

民間信仰で広く崇められている

畑の中にひっそりと祀(まつ)られている、
顔が削られたお地蔵さんは
イボ地蔵と呼ばれている。

『旧高田村誌』によると、一休和尚が開眼し、元治二（一八六五）年に再建されたといわれている「イボ地蔵」。名のとおりイボを治すお地蔵様として、地元では昭和三十年頃まで信仰されていました。お地蔵様の顔を石でこすり、その粉をイボに塗れば治ると信じられ、また、オコリ病（ふるえ病）にもご利益があったと伝わります。今では、すっかりお顔が削り取られてしまったお地蔵様ですが、きっと多くの人々の願いを聞き入れて下さったことでしょう。



弘法大師の手形が押された
 「押手石^(おしていし)」は、印沢^(おしてざわ)の名の
 由来になっている。

昔、諸国巡りの際に、この地に立ち寄った弘法大師が石に手をつくると、そこに手形が残りました。これを見た村人は驚き、大師の説法に聞き入り、石を大切に祀ったと言われています。源昌寺境内の印石には、大師の左手の跡が残りますが、右手の印石は、これより東方の、雨乞いが行われていた池の側にあります。今、池はありませんが古井戸が残っています。



【印沢の由来】

手の印の石の出ずる沢というので、「印沢(押手沢) (おしてざわ)」と村の名を名付けたと伝わる。現在は印沢(いんざわ)と呼ぶ。

ちよつと寄り道

シラカシが生い茂る

弓削^(ゆげ)神社には、紙の神様が
祀られている。



06

【弓削神社】

創建は不詳。延喜式にある甲斐国20社の一つ。

祭神は日本武尊などの諸神。祭神である大伴武日命(おおともたけひのみこと)は日本武尊より、

「朝部(ゆきべ)」「(天皇を直接守護する役)を賜りこの地に住んだ。

神社はその館跡。また、神社南の弓削塚という古墳は、大伴武日命を葬った墳墓であったと伝わる。

高田地区では浅間神社が一之宮、弓削神社が二之宮と呼ばれています。弓削神社本殿の右手には摂社があり、紙の神様とされる「天日鷲命（あめのひわしのみこと）」を祀る「白紙社」があります。

市川大門に残る古書に、平塩に九戸、弓削に七戸の紙漉きがいたと記述があることから、この弓削の紙漉きたちによつて祀られたのではないかと考えられています。社宝には、室町時代の木造の狛犬があります。江戸時代以前の狛犬は珍しく大変貴重なものです。



ちよつと寄り道

印沢地区には、室町時代から 地域を見守る六地藏石幢

(ろくじざうせきどう)

がある。



印沢の村松錦鯉店の一角にある、六地藏石幢。一見すると、石灯籠にも見えますが、台石の上に幢身(とうしん)(竿)がたち、中台の上に、玄武岩質の石で刻まれた六地藏が安置されています。そして順に、笠と宝珠が載せてあります。各部の彫刻など室町

時代の様式をほぼ完全な形で残していることから、町の文化財に指定されています。現在でも、紙垂(しで)が飾られる六地藏。地元の人に信仰されている様子が伺えます。

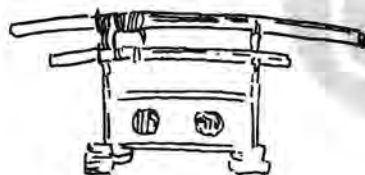
【六地藏】

平安末から鎌倉時代に盛んになり、室町時代には一般化し多くの石幢が建てられた。六地藏とは六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上)のそれぞれにあつて衆生の苦しみを救済する地藏菩薩のこと。

代々名主を務めていた青柳家には、
築三百年近い「味噌蔵」が残る。

青柳家には、築三百年近い土塀の味噌蔵、米蔵、文庫蔵があります。また、茅と麦わらぶき屋根をトタンで囲った母屋も貴重なもので、築百五十年以上です。

現在十六代目になる青柳家は、甲斐源氏の加賀美遠光（かがみとおみつ）の系統にあたると言われ、家には戦国時代のもものと伝わる「鎧（よろい）」や「太刀（たち）」などが残っています。また、青柳家の東隣は青柳家の屋敷神とともに、石垣の上に祀られた道祖神があります。



【加賀美遠光】

甲斐源氏の祖・新羅三郎義光のひ孫にあたる。南アルプス市旧若草町を本領とし、
駿西地方、諏訪、塩山などを治める。甲府市の遠光寺は、その菩提寺として建立されたと伝わる。

印沢川
(おしてざわがわ) は、民家よりも高い
 ところを流れている天井川である。



09



印沢川は、高田地区の南側を流れます。
 天井川であることから、古来は、水害の被害も多くありました。しかし、国費を投じ、河川改良が完成してからというもの被害

は減少し、大雨のとき以外ほとんど水は流れないそうです。町内では、川底に掘られたトンネルを県道とJR身延線が通るといふ珍しい光景が見られます。

【印沢川】

小物成山、帯那峠(おびなやま)を水源とする。入山地内を北上し、弓削神社の南側で西方に流れ、大鳥居地内で苗吹川に合流する。この河川はその普洪水が多く、その度に土石流を流し、扇状地となった。



「四神四獣鏡」

(ししんしじゅうきよう)

「は、ヤカンの

フタとして利用されていた!?

一宮浅間神社の宝物に、旧三珠町の狐塚で発掘された銅鏡「四神四獣鏡」があります。この鏡には、明治中ごろ、旧三珠の大塚の民家で、畑から出てきた金物をヤカンのフタ代わりに使っていたところ不幸が続いたので、高田の浅間神社に納めた、という話も伝わっています。真相は分かりませんが、三国時代に中国の呉の国で造られた貴重な鏡は、日本に三面しかなく、現在、国の重要文化財に指定されています。

【一之宮浅間神社】

祭神は、木花開耶姫(このはなさくやひめ)と諸神。貞観7(856)年に正体山に宮を建て、後、高田地区に移す。

鏡文の四神四獣鏡や、内行花文鏡(ないこうかもんきよう)、八ノ宮良純親王・兼の「一宮大明神」の額など多くの社宝が残る。

また赤松林は県指定の自然記念物である。祭典は、11月3日の一之宮浅間神社祭、五月のつつじ祭り。



一之宮浅間神社には、
生前に神として崇^(あが)めた
功德者の生祠^(せいし)が一基ある。





一之宮浅間神社の境内には、功德者を生前に神として祠に祀った生祠が二基あります。一基は名主の「依田十左衛門安清」の生祠。もう一基は市川代官の「荒井清兵衛顕道」の祠です。両者の年代は違うものの、江戸時代に起こった災害で村人を救済したことから祀られました。

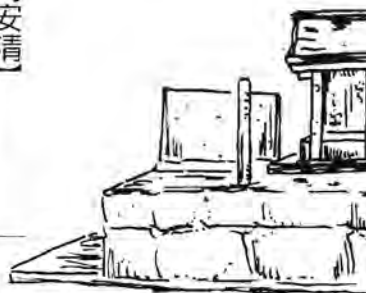
高田地区には、もう一基生祠があります。県内には十三の生祠がありますが、そのうち三星が一つの地区にあるのは珍しいことです。

高田村名主「依田十左衛門安清」

柳沢吉保に請願し高田村の水利排水を完成させる。その後、寛保二（一七四二）年の大洪水で損害を受けた村の救済を行った。浅間神社の石段と石垣を寄進。生祠は生前に安清の子が建立した。

市川代官「荒井清兵衛顕道」

第十七代市川代官。安政の大地震で、高田村が全滅したときに、御金蔵金で村民を救済した。『牧民金鑑（ほくみんきんかん）』という法令集を編集する。



見事な枝振りの流通寺のビャクシンは、
四百年ちかく高田地区を見守っている。

印沢川の土手を南に下ると、流通寺の境内にある大きな「ビャクシン」の木が見られます。枝振りがすばらしいこの木は、樹齢が約四百年と言われ、流通寺の歴史と関係があると伝わります。幹は、たて割れがしやすいことから今はコンクリートが埋められています。太い枝は支柱によって支えられ大切に保護されています。昭和二十四（一九四九）年、県の天然記念物に指定されました。



【鯉王山 流通寺(るつうじ) (日蓮宗) 通称リユーツージ]
日蓮宗の寺。「リゅうつうじ」とも呼ばれる。慶長7(1602)年、本立院日正大徳によって開創。
七面天女を本堂とする七面堂がある。

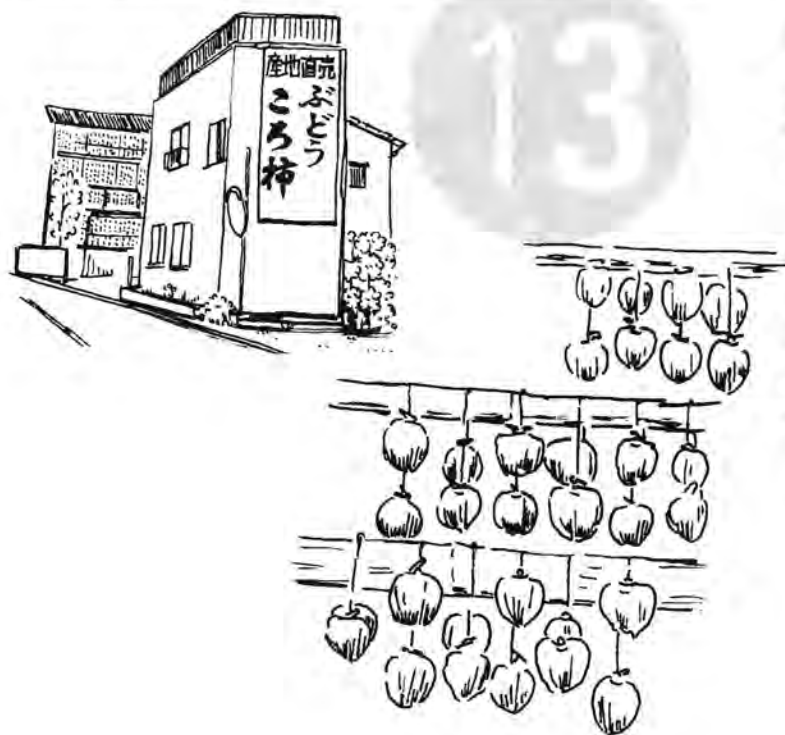
【ビャクシン】

ヒノキの針葉樹の一種。別名、イブキ、ビャクダン、カマクラビャクシン。雄雌異花で、花期は香。

古田農園の干し柿は、市川三郷鰍沢線沿いの秋の風物詩になっている。

秋にはまるでオレンジ色のカーテンのように柿が吊るされる古田農園。市川三郷鰍沢線沿いは立地的にも干し柿づくりに恵まれ、その昔は、多くの家で柿の木を植えていました。

現在で二代目になる古田農園の柿は、自家農園のもので、種類は百目とエポー柿です。毎年、十トンもの柿の皮むきは大変な作業で、昔は、近所の子どもたちが、お小遣い稼ぎに手伝ったといえます。おいしい干し柿の見分け方は、やわらかく、全体に白い粉がついているものだそう。古田農園では十二月上旬から干し柿の販売を始めます。



西光寺(せいこうじ)の秋葉堂には、
 天狗(てんぐ)様と観音様がいつしよに
 祀(まつ)られている。



【高田十八景】

文政2(1805)年、西光寺において俳句の会が開かれ、このときに定めたものといわれる。

当時寺には十八景の俳句を詠んだ匾額が奉納されていたと伝わる。

水神曉雨、浅間返照、清水芹引、桐田彌公葵、出口蝶、古川流螢、曲青田、西光夏月、

久保の春秋、三橋の涼、鬼塚初鷹、黒木紅葉、梅沢行秋、

藤川漁火、宮田鴨、沼田氷、長生の晴鐘、正体に霞(あられ)



14



西光寺(さいこうじ)は、高田地区における十八の優れた風景を選んだ「高田十八景」の一つです。その景色は「西光夏月(せいこうのかげつ)」と詠まれ、夏夜に光る月の美しさが表わされています。

境内には秋葉堂があります。火伏せの神の、三尺坊大権現(さんじゃくぼうだいご

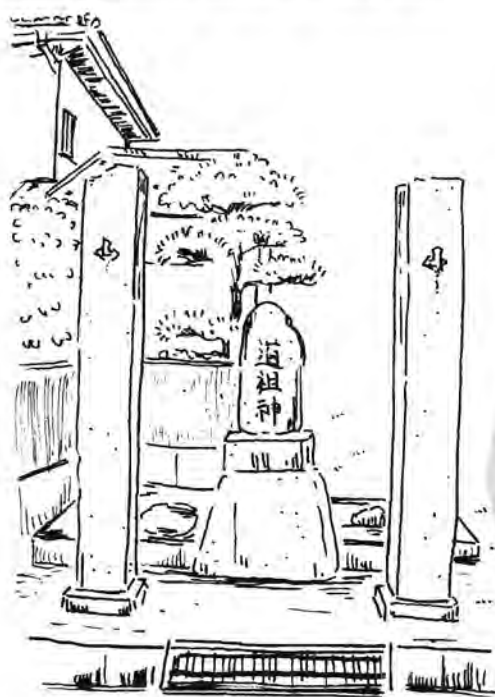
んげん)(からす天狗)が祀られ、毎年三月の鎮火祭では、山伏の火渡りが見られます。また、ここには千手十一面観音菩薩も祀られています。明治六(一八七三)年、近くにあった観昌院という寺が廃寺になり、西光寺に勧請されたものです。

【九生山 西光寺(曹洞宗)】

元和二(一六一六)年、深向院五世道元十八世の法源雲外の開基。本尊は、聖観世音。境内には十一面観音を祀る観音堂がある。

その昔、中町の道祖神には
「おとうろろぶっさん」という
お地蔵さんが祀られていた。

古田農園裏手の道は、高田地区の旧道で、東から順に上町、中町、下町と言われています。中町の道祖神は、「道祖神」と自然石に刻まれ、文政六（一八二三）年に建立されました。脇には「高田邑（むら）二丁目連」と記されます。また、ここには昔「おとうろろぶっさん」と言われるお地蔵様がいました。お灯笼と仏参（仏を拜むこと）のことでしょうか？ 名前の詳細はわかりませんが、持ち上げたときの軽重の感じ方によって吉凶を占う「伺い石」とも言われ、今は一之宮浅間神社に安置されています。



【道祖神の形態】

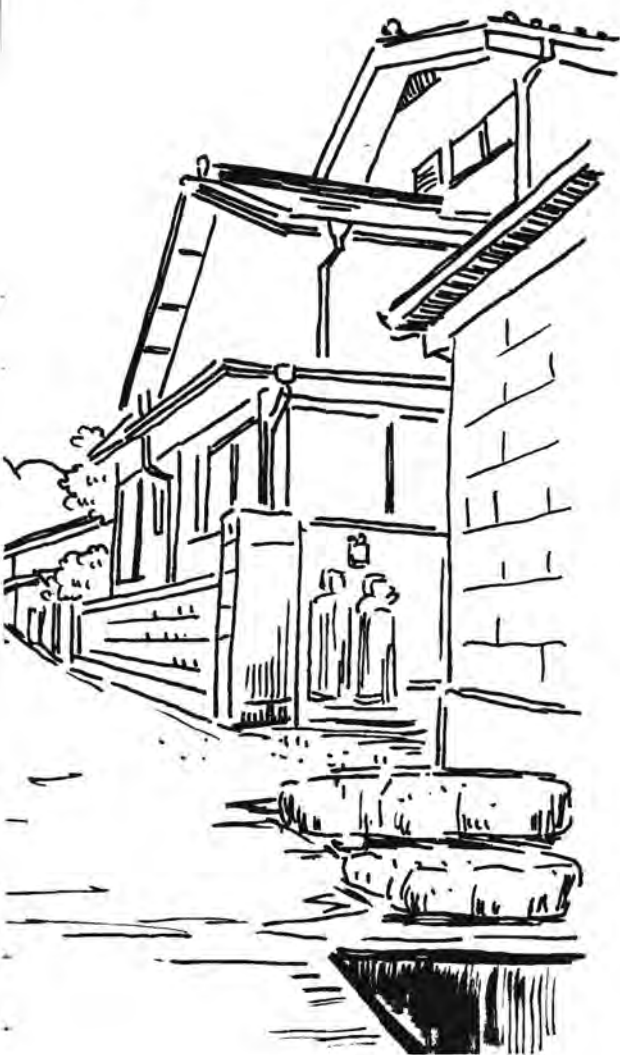
主に自然石に刻銘を入れたもの、丸石、二体像（双体道祖神）の三種類に分かれる。

15

上町の愛宕社のお地蔵様の社では、 盟神探湯（くがたち）の祭りが行われる。

通称「おはたごさん」。毎年三月の祭りに
は、「盟神探湯」が行われます。釜で沸かし
た湯を笹で人々につけ、無病息災を願うお
祭りです。また、堂には愛らしいお顔のお
地蔵様が祀られています。天保二（一八三
一）年に造立され、体が削られていること
から、イボ地蔵のような民間信仰の名残が
感じられます。境内には、ほかに道祖神と、
養蚕の神様の蚕影（こかげ）明神、石灯、灯
籠が祀られます。

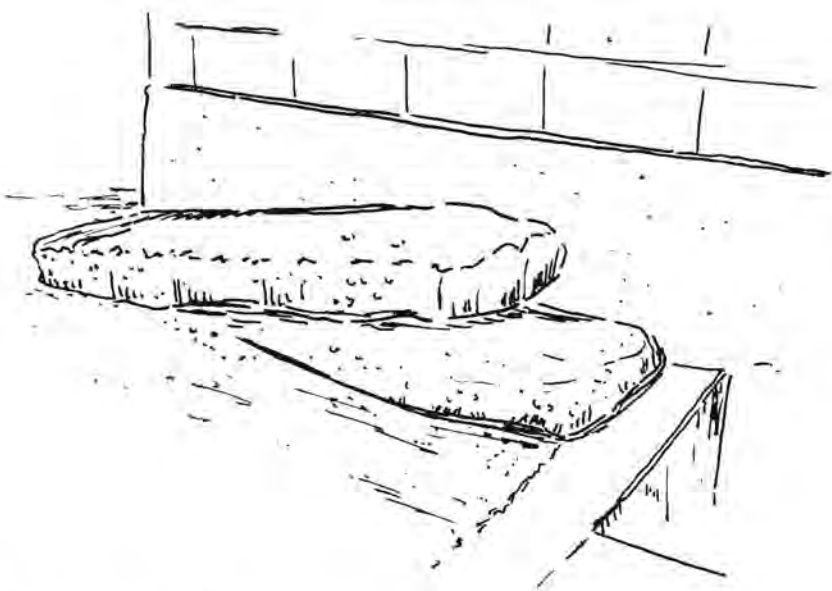




浅間神社の祭りには、
神主が三枚橋(さんぺい)から
川へ石投げをする。

17

西八代農協の後ろを流れる鳴沢川には、三枚橋「さんべい」という石板があります。今は二枚ですが、昔は河内路にかかる三枚の石橋でした。その昔、市川に疫病が流行ると疫病神を神輿にのせ高田に送りつけたそうです。高田側が三枚橋の一枚を投げ捨て、追いついたところ、市川では疫病で亡くなる人が増えました。するとまた高田へ。高田はこれを追いつ返す。それを繰り返すうちに、石合戦になったといひます。今でこそ石合戦はありませんが、十一月三日の浅間神社の祭りには、ここで、神主が小石を川に投げ込みます。



【河内路】

甲斐国と駿河国を結ぶ古道のうち、最も西側に位置し、富士川沿いの河内領内を南北に縦断する道筋である。身延山の参詣の陸路としても栄えた。

「かわいい」のコロッケは、
近所の子供たちの放課後の定番
おやつになっている。

現在二代目になる、「お惣菜のかわいい」は、創業より五十年間昔ながらの味を守り続けています。揚げ物の専門店を代表する逸品はコロッケ。男爵ジャガイモの甘味を引き出すために肉を使わない野菜コロッケは、一日に三百〜五百個を揚げる人気ぶりです。その素朴な味は、どこか懐かしい昭和の味わいがします。旧市川大門町のレトロな町並みを散策しながら食べる懐かしいコロッケ。どこかノスタルジーを誘いますね。



18

秋山邸は、県内初の電力会社をつくった秋山喜蔵の家である。

大正初期に建てられたケヤキの塀が目をひく秋山邸。庭には、蔵とつげの古木があります。秋山家の祖先には、山梨初の水力発電所を創業した秋山喜蔵がいます。明治三十三（一九〇〇）年、初めて県内にともされた電燈は、甲府に十二燈、旧市川大門町に二燈でした。現在の当主、亮（あきら）氏によると、市川で電燈がともされた当時は、「水から灯がでた」と見に来る人が集まり、大変なお祭り騒ぎであったといいます。



【秋山喜蔵】

市川小学校の校長、県会議員などを経て、明治31(1898)年市川大門町長になる。後に甲府電力株式会社を創立。秋山家の菩提寺である宝寿院には、秋山氏の業績を讃え、電燈が立っている。また三珠の歌舞伎文化公園にも秋山氏の像が立つ。



【山梨の電気】

明治33(1900)年、旧・三珠町に甲府電力所第一発電所を設立。

日本では、三番目の営業用水力発電所である。明治40(1907)年には駒橋発電所ができ、初めて東京に水力発電の電力を供給した。その後、桂川、早川、釜無川、田吹川などに発電所が建設され、昭和26(1951)年に統合され東京電力となる。

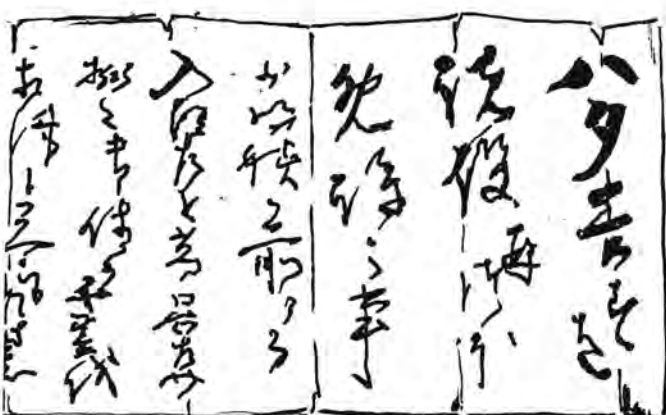
市川の御用紙は

「肌吉紙

(はだよしがみ)

」と呼ばれ、

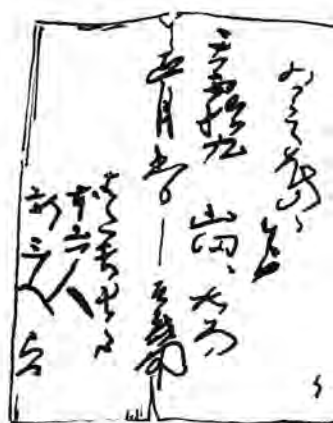
国語辞典の広辞苑にも載っている。



肌吉文書

20

市川で漉かれた和紙は「美人の素肌のよ
うに美しい」ことから「肌吉」といいました。
コウゾが原料の厚手の純白高級紙で、武田
家と徳川家に御用紙として献上した紙は、
奉書（ほうしよ）に用いられました。特に、
徳川家の祝い事用の献納紙を送る際は、茶
壺道中さながらの行列であったといいま
す。この御用紙漉き職人は「肌吉衆」と言わ
れ、一般に販売される売り紙漉きの職人に
比べて、緒役を免除されるなど大変優遇さ
れていました。



〔市川和紙の始まり〕

延暦23(804)年、現在の平塚の岡にあった、天台宗平塚山「白雲寺」の旧記に、

「平塚に九戸、弓削に七戸の紙漉あり」と記録が残っている。

また、甲斐源氏の相である源義清(みなもとよしきよ)が、京都から市川に入った際に伴った紙工の家臣が、
紙漉き技術を伝えたとも言われている。

旧市川大門町には、紙の製造・加工業者を合わせて紙関係の工場が二十社ある。

市川御用紙は、明治維新とともに衰退し、

代わりに一般の売り紙漉きが主流になってきました。しかし次第に、手漉きの需要も少なくなり、機械漉きに移行していきま
す。昭和二十九（一九五四）年には、町内の製紙工場で、ビニール障子紙が開発されたことから、「障子紙の町」の礎を築きます。
現在は主に、障子紙、社寺用紙、書道用紙などを生産し、障子紙は、全国の四十パーセントをシェアするまでにいたっています。

21



豊川製紙の豊川秀雄さんは、 手漉き和紙製造で、県の名工や 市川三郷町無形文化財に 指定されている。

旧市川大門町では、その昔は二百軒ほどあった手漉き和紙製造も今は、豊川製紙一軒だけです。六代目の豊川秀雄さんは主に画仙紙や絵葉書などをつくっています。紙の原料は、みつまたや、竹パルプ、コウゾなどですが、最近では、ぶどうのつるを用いた、ぶどうの香りのする紙や、もみじなどを用いた紙も開発されました。豊川製紙では、この道三十五年以上の名工の技を見学しながら、手漉き和紙の体験もできます。



【手漉き和紙の工程】

- 1、煮熱(しゃじゆく)／紙の原料を薬品と一緒に煮て不用品を取り除き、繊維を取り出す。
- 2、叩解／(こうかい)機械で繊維をほぐす。
- 3、紙漉き／漉き舟の中にほぐした繊維とねりを入れ、かき混ぜ、すけたを用いて漉く。
- 4、脱水。
- 5、乾燥／乾燥機に張りつけ乾かす。

和菓子屋の「太田屋」には、夏限定で、
お麩^ふで作った「麩まんじゅう」がある。

店内に貼られている「まごころ入っています」のポスター。「太田屋」は、昭和三十五（一九六〇）年に開業しました。「なるべく地元の食材を使う」というご主人。「桑の葉大福」や「スイートポテト」「金つば」などが人気商品です。また、夏場には、お菓子では難しい、麩を使った「麩まんじゅう」が好評で、遠方からもお客様が来ます。アンコも自家製にこだわってお菓子は、そのどれもが、ご主人の「まごころ」を隠し味としているようです。



メモ

wagamachi-guide book

市川三郷町市川大門編

蔵のある古民家を訪ね、
天井川沿いの「ころがきの里」を歩き、
市川名産の和紙を漉く旅

発行

市川三郷町役場

〒409-3601

山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1790-3

TEL 055-272-1102

FAX 055-272-2525

URL <http://www.town.ichikawamisato.yamanashi.jp>

企画

株式会社サンニチ印刷

編集

特定非営利活動法人つなぐ(つなぐNPO)

「まちミュー友の会」

印刷

NPO法人つなぐ・ほんほん堂

発行日

2007年12月9日

発行：市川三郷町役場

〒409-3601

山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1709-3

TEL 055-272-1102

FAX 055-272-2525

